



南浦和中だより



第 9 号

平成30年 1月 9日(火)
さいたま市立南浦和中学校
さいたま市南区辻 6-1-33
Tel 048-863-0753
さわやか相談室 直通
Tel 048-837-5909



《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく

「 老人と渡り鳥 」

校長 ましこ けいじ 慶次



新年、あけましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。昨年は、本校の教育活動に対しまして多大なるご支援とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

2日・3日に行われました「東京箱根間往復大学駅伝競走」は、青山学院大学が見事なチームワークで総合4連覇を果たしました。本校も教職員一丸となり、心豊かで、たくましい生徒を育む教育を積極的に推進していく所存です。引き続き、皆様方の温かなご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、皆さんは次の文を読んでどのように考えるでしょうか。

ある湖の畔に、一人の老人が住んでいた。老人の生き甲斐は、毎年、冬になるとこの湖にやってくる、渡り鳥の群れと出会うことであった。渡り鳥は、北の方からやってきて、ここで越冬し、春になると北へ帰っていくのである。渡り鳥にとって、小魚がいっぱい生息しているこの湖は、格好の越冬場所になっていた。こうして、渡り鳥の飛来は、湖の周辺に住む人々の冬の楽しみとなっていたのである。

ある冬のこと。この地方に、とてつもない寒波が襲来し、湖は一面厚い氷に閉ざされてしまった。冬を越そうとやってきた渡り鳥たちは、湖の魚を獲ることができなくなり、弱り果ててしまった。この様子を目撃した老人は、渡り鳥のための餌を用意し、氷の上にまいてやった。老人の行為は、来る日も来る日も続き、鳥たちは、お蔭で無事越冬を終えて、春になると北の国へと旅立つことができたのである。

また次の年、冬がめぐってきて、渡り鳥が大挙してやってきた。この年は暖かく、湖が凍るようなことはなかったが、この年から老人は、渡り鳥のために餌を作るようになった。渡り鳥の餌を求める姿をいとおしく思ったのであろう。渡り鳥も、苦労することなく餌が確保できるので、老人に甘えるばかりであった。こうして、渡り鳥の数も年々増え続けていき、餌をまく老人の姿と、それに群がる鳥たちの光景は、冬の湖の風物となっていた。こうした光景が、何年も何年も続いたある年のこと、老人は病に倒れ、あっけなくこの世を去ってしまった。この年も、多くの渡り鳥が湖に舞い降りてきたが、不幸は重なるもので、稀有の寒波がこの地方を襲ったのである。渡り鳥たちは、老人の餌ももらえず、湖の餌を獲ることもできず、多くの仲間が餓死してしまうという、非常事態が起こった。この様子を目撃した湖の周辺の人々は、「老人が餌をやったから、渡り鳥は、餌を獲る努力をしなくなったのだ」とか、「最初に餌をやらなければ、もっと南を目指して飛んでいったかもしれない」などと、非難し合ったものである。



皆さんは、この老人の行為について、どのように考えるでしょうか。

我々教師と生徒の関係、あるいは親子関係にも重ねることができる部分があると思います。教育には『これが絶対と言えること』はないと思います。我々が、一人ひとりに愛情を注ぎ、寄り添い、ときには厳しくも接しながら、しかし最後は自分自身でより良い判断をし、確実に一步一步前進できるようにしてほしいと願っています。

年頭に当たり、ご家庭でも、周囲への思いやりや感謝の大切さ、少しずつの努力の積み重ねの大切さを保護者の皆様これまでの人生を語りながら、ご指導いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。